

# 山梨県立峡南高等学校

## 黒船到来

# 「リア・ディゾン号」



### <製作スタッフ>

土木科3年・園芸科研究「コンタートカマー」部 6名

部長：菅澤智也 副部長：渡辺勇平 (担当教員：北原修、宮城雄次)

委員：秋山良大、中里純二、渡辺博明、山本貴由

### <製作経緯等>

製作期間：4ヶ月 (基本設計は昨年夏スタッフ総務-11-2月(休置))

作業時間：6名×60時間=360名・時間

### <製作経緯>

①船体の製作 (船体の材料を切り出し、骨組みを組み立てる)



②船体「真鍮板」の加工 (ブローチで加工して船体の骨組みに貼る)



③船体の骨組み、船体の骨組み、船体の骨組みに骨組みを貼る



④船体材「金網」の加工 (骨組みの骨組みに金網を貼る)



⑤コンタートの加工 (コンタートを加工して船体の骨組みに貼る)



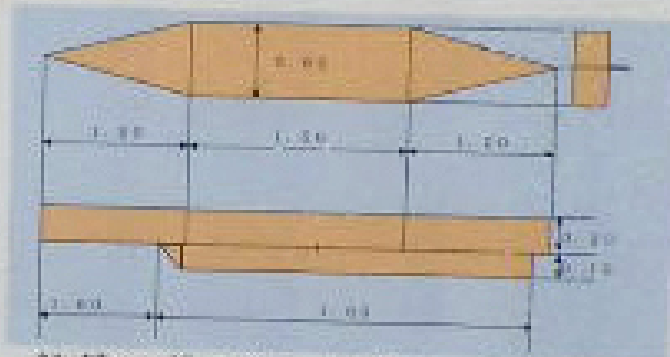
⑥船体の骨組み (コンタートの加工、船体の骨組みに貼る)



### <設計形状>

船体の機軸転換を想定、「転換に対する安全性」を最優先の設計に。

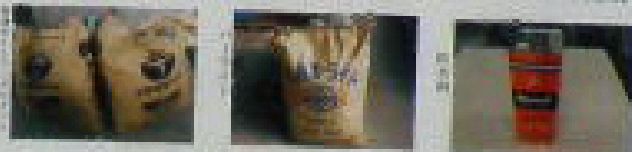
さらに、1年年度・2年年度の成員を生きつづつ、さらなる安全性と操作性を確保できるように設計。



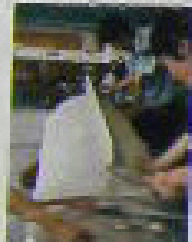
長さ(全長)：約 11.50m 幅(最大)：約 1.50m 高さ(最大)：約 0.50m  
 長さ(コンタート)：約 11.50m 高さ(最大)：約 0.50m

### <使用材料>

船体骨組みの転換性と船体の船体のため、軽金属材「アルミ」を多用。コンタートと、補強材として真鍮板を使用。また、船体骨組み等に配置し、コンタートを考えながら、製作に取組み。例えば、船体の船体骨組み材料を高材料、高材料として、使用済みのペットボトルと発砲スチロールを使用。



⑦船体・船体 (船体の骨組み、船体の骨組み、船体の骨組み)



⑧船体の骨組み (船体の骨組み、船体の骨組み、船体の骨組み)



⑨船体の骨組み (船体の骨組み、船体の骨組み、船体の骨組み)



⑩船体の骨組み (船体の骨組み、船体の骨組み、船体の骨組み)



### <感想・反省>

- ① 本校にはボート部がなく、学校近郊の川まで人力で移動式に運ば、片道5分の移動し、渡舟。1日のための本業のブローチで、渡舟練習できない。
- ② 昨年より船体が大きく、船体骨組みイメージしたが、渡舟に慣れてくると、1ヶ月で渡舟しないと結果はわからない。
- ③ ボートは昨年より長くしたので、直線性が増すことに期待したい。
- ④ 船体骨組み使用材料のコンタートについて、今後も取り組みたい。